

大阪のカレンダー製本を支える職人企業

Tanzac[®](タンザック[®]) 軸に「早い・正確・キレイ」で市場から高い信頼
生産性と品質を両立、ネットショップ「Cocorupier」を開設し市場開拓

中村屋紙工株式会社

本社：大阪市平野区西脇2-1-26
代表：三村健史 氏
TEL 06-6702-1698
<https://nakamuraya-sikou.com/>



中村屋紙工本社工場

大阪市平野区の中村屋紙工株式会社（三村健史社長）は、Tanzac[®]（タンザック[®]、以下同）製本、ダブルリング、ペーパーリング製本で大阪のカレンダー製本を支えてきた。中心となっているのが紙製ホットメルトの「Tanzac[®]（タンザック[®]）カレンダー」製本である。三村健史社長は「環境対応、SDGsが社会標準となりました。いち早く12年前に渡辺通商のTanzac[®]（タンザック[®]）カレンダー製本機を導入しました。Tanzac[®]を中心にダブルリング、ペーパーリング、卓上カレンダーからメモ帳、らくがき帳など新しい市場への取り組みを進めています」とカレンダー製本の技術を生かした新しい市場の開拓に取り組んでいる。



右から三村健史社長、夫人の三村康代氏、長男の三村崇生氏



Tanzac[®]の卓上カレンダー



ペーパーリング製本の卓上カレンダー

「早い・正確・キレイ」を支える カレンダー製本の総合力

中村屋紙工は1957年に創業し、今年創業69年を迎える。三村健史社長は四代目で、数年前には五代目となる長男の三村崇生氏が入社した。「早い」「正確」「キレイ」を実現する製本品質を一貫して追求している。

主な設備は勝田製作所のA倍判断裁機

SH430-HOW1306mm JMC7、渡辺通商の最大A2サイズカレンダー製本機Tanzac[®]（タンザック[®]）連動機2台、ダブルリング製本機1台、渡辺通商ペーパーリング製本機が3台、宮本鉄工穴あけ機1台、ホリゾンの自動スジ入れ機が1台、手動式角丸機が1台、計数機1台。タンザック製本[®]、ダブルリング製本、ペーパーリング製本の中で、受注の大半をTanzac[®]カレンダー製本が占めている。

背景には、企業の環境・SDGsへの取



渡辺通商のBC丁合機とTanzac®カレンダー製本機



A倍判勝田製作所断裁機SH430-HOW1306mm JMC7

り組みにある。金具やプラスチックを使わない綴じ具ではなく、紙製のタンザクカレンダーは、環境負荷が少なく、SDGsの理念に合致する。「Tanzac®カレンダー製本が環境・SDGsという評価が企業や団体、学校に定着しました。綴じ部分が紙製のためにリサイクルが容易です。金具やプラスチックを使っていた綴じ具は紙製Tanzac®に置き換わりました。廃棄物削減、資源循環を重視するSDGsの目標12（つくる責任つかう責任）を達成します。綴じのホットメルト糊は、金具を使わないので小さな子どもや高齢者でも安全に扱えます。SDGsの目標3（すべての人に健康と福祉を）です。ユニバーサルデザイン的な価値も達成しています」とTanzac®カレンダーが新しいカレンダー製本の標準となっていると述べる。

Tanzac®製本機とBC丁合機の連動機で高い生産性、卓上カレンダーが増加し薄物・コート紙へも対応

同社の強みを支えているTanzac®製本機はBC丁合機の連動機で生産性に優れている。丁合工程と繋げて段取りや搬送にかかる時間を短縮。連動機は工程のロスを減らし、短時間のTanzac®カレンダー製本を可能にした。

三村健史社長は「速さを追うだけではありません。工程間を繋ぐことで、仕上りの安定性やカレンダーの見栄えにもつながっています」と述べる。「正確」「キ



卓上カレンダーは多面付丁合

レイ」を至上とする上で連動機は重要な意味を持っているという。

最近卓上カレンダーの受注が目立ってきた。中村屋紙工はこうした需要変化に対応し、卓上カレンダーの多面丁合掛けシステムを考案。同社だけが持つノウハウとなっている。また、薄物やコート紙は加工が難しくなるため、カレンダー製本における用紙対応が問われるが、同社は長年培ってきた加工技術で問題なく製本ができる。中村屋紙工では、カレンダー製本機、丁合機、断裁機の管理・メンテナンスを欠かさない。三村社長は、「心を込めて大切にものづくりをするために製本機をばらしてピカピカに磨きます。常に隅々まで磨いて掃除します。劣化した部品は交換して機械をいつも万全の状態を保ちます」とメンテナンスが同社の品質を支えていると述べる。

勝田製作所の断裁機を一貫して採用 美しく上質なカレンダーに大きな貢献

製品質において同社は断裁品質を重



ダブルリング製本のらくがき帳

視する。中村屋紙工は勝田製作所のA倍判のSH430-HOW1306mm JMC7、スタッカー連動機で高品質の断裁工程を実現している。三村社長は「断裁工程はカレンダー製本の品質を左右します。紙面の揃いや断裁面の美しさは、最終製品の印象に直結します。中村屋紙工の高品質カレンダーは、断裁機精度も高いという評価されています」と勝田断裁機へのゆきない信頼を寄せている。

新たな市場開拓へネットショップと福祉分野へ

中村屋紙工は、新しい市場への取り組みを進めており、2025年にネットショップ「Cocorupier」を立ち上げた。社会福祉法人へノートやらくがき帳の寄付をし、長年ボランティア活動を続け、ミニノートやメモ帳の製作を始め、受託型の製本にとどまらず、新たな事業展開を始めた。

ミニノートやメモ帳は、カレンダー製本の技術を活かした販売開拓を行い、BtoBと異なる顧客との関係づくりを広げている。